

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松友会	代表者	理事長 上田 慎子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・法人グループ内で、グループホーム、特別養護老人ホーム等入所系施設があり、また居宅介護支援事業所、デイ、ショート等居宅系事業所もあり、総合的・継続的なサービスが提供できます。 ・事業所名である「オハナ」にはハワイ語で家族という意味があります。お互いに助け合うことをいとわない親しい友人や仲間のこともオハナと呼ぶことがあります。そうした関係性を大事にし、顔なじみのスタッフがニーズに沿って柔軟な対応を行い、ご自宅、地域での生活をご支援します。また食事は施設内厨房で手作りし、季節にあった料理を提供しています。
事業所名	ピースフルライフ オハナ	管理者	伊藤 陽子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人(兼)	1人	0人	1人	1人	1人(兼)	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての自己評価で、曖昧な改善計画になっていた部分もあるため、より具体的にシンプルな計画にすることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は全スタッフを対象に自己評価を行ったため、言葉の意味、支援の内容がわからないといった意見もあり、回答にバラつきが生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの皆さん、忙しい中で大変だったと思う。 ・外部のメンバーとして何て言ったらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、看護、調理、ケアマネそれぞれの職域、仕事内容を理解しあい、相互の専門性を活かしたケアを行う。 ・専門性の高い言葉についても、お互いに聞きながら、理解を深める。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気を保てるように努める。 ・常時、立て看板前の雑草を整理する。 ・安全運転に心かけ、地域住民の方々に迷惑をかけず、事故0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気を保つことができた。 ・入口道路沿いの立看板前の雑草は常時整理できた。 ・事故0を達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入った時には、明るいなど感じる雰囲気である。 ・不快な音や臭いなど、特に気になったことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の整理整頓、過ごしやすい環境を作るよう、引き続き明るい雰囲気を保てるように努める。 ・事業所周辺は狭い道路なので、運転に注意し、事故0を目指す。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすいよう、今後も懇切丁寧に対応していく。 ・来訪者の方々に挨拶をきちんと行い、気持ち良いと感じていただく。 ・地域行事に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な対応ができ、苦情などはなかった。 ・挨拶の大切さ等、接遇研修などを通じ共有できた。 ・市民清掃などに参加した。 ・演奏会の案内を地域へ発信したが、参加者はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護に携わっているご家族、包括や居宅のケアマネには知られている。 ・いつも丁寧に対応してくれて、相談しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇切丁寧な対応を行い、相手に感謝の気持ちを伝え、挨拶を重んじて、良い関係作りに努める。 ・地域の行事に参加する。 ・オハナのイベントへ地域の方に参加していただけるよう情報発信する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の送迎、訪問中など周囲に対しても目配りをしていく。 ・施設内の安全確保をしながら、相談業務を円滑に行えるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設外でも目配りをしているが、新しいニーズの発見などはなかった。 ・ドライブや送迎などを通じて、自宅外のゆかりある場所・出来事などの話を聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4の項目について、初動は民生委員や包括が関わり、内容により各事業所に振り分けて検討することが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の送迎、訪問中など周囲に対しても目配りをしていく。 ・送迎時やドライブ時など、地域に関わる話しを折り返し、その地域のゆかりある会話をする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で共有した地域のニーズに対し、事業所で解決できるケースは懇切丁寧に対応していく。解決できない時には、関連機関との連携を図り、解決に向けた行動をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議内で施設の状況を伝え、参加メンバーにオハナの状況を知ってもらえることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開所当時は小規模って何？から始まり、会議を通じて知ることができた。 ・最近ではどんな所で、どんな方針で運営しているかがわかってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で共有した地域のニーズに対し、事業所で解決できるケースは懇切丁寧に対応していく。解決できない時には、関連機関との連携を図り、解決に向けた行動をとる。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、事業所共に防災計画を確認し、災害時のことを想定しておく。 ・支援を求めて来た人に、安心して過ごしていただけるように心づもりをしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所、自治体双方の防災計画を確認しあった。 ・内容の把握が不十分。 ・地区の防災訓練に参加した。 ・地域住民の方へ避難訓練についてお知らせした。 ・非常ベルの音は外にはほぼ聞こえないことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地区の防災訓練への参加をしてもらったらいと思う。 ・本当の緊急時には、機能してもらったら住民は助かる。この地区は伊勢原高校が広域避難所となっており、脚の悪い人には遠くて大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、事業所共に防災計画を確認し、災害時のことを想定しておく。 ・伊勢原市との災害時における福祉避難所としての協定に基づき、支援を求めて来た人に、安心して過ごしていただけるように心づもりをしておく。
----------------------------	---	---	--	--

